Benesse
Art Site
Naoshima

| 特集 | ベネッセアートサイト直島

「よく生きる」を体現し、一生成長する力に出会う。

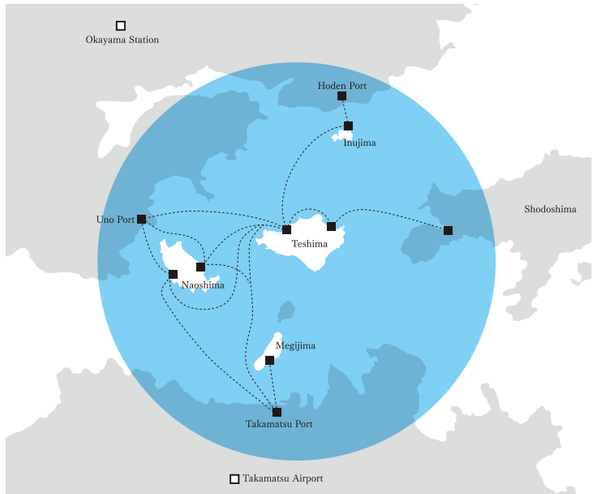
「ベネッセアートサイト直島」は、直島・豊島（香川県）、犬島（岡山県）を舞台に
株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称です。
「ベネッセアートサイト直島」が見せてくれるのは、自然・アート・人々の共生。
企業理念「よく生きる」を体現し、一生成長する力に出会える場でもあります。
スタートから30余年。積み重ねられてきた活動の数々や、そこに込められた想いをご紹介します。

「南瓜」草間彌生 ©YAYOI KUSAMA

“SDGs”がなかった時代から、持続的な成長の意義を発信。

自然・アート・人が共生する特別な場所

「ベネッセアートサイト直島」の始まりは、1980年代。SDGsという言葉が生まれるずっと以前のことでした。基本方針は、直島・豊島（香川県）、犬島（岡山県）を中心とした瀬戸内海を舞台に、時間をかけてアートをつくりあげていくこと。島の自然や文化の中にアートや建築を溶け込ませることで、特別な場所を生み出していくことです。アート活動を通して、本当の豊かさや持続性とは何かを発信し続けてきました。訪れる方が自然や島民と触れ合い、アートに向き合うことで、自分自身の「よく生きる」とは何かについて考えていただくきっかけになることを願っています。



アートによる地域の再生・問題解決

受け継がれてきた歴史と、日本の原風景ともいえる自然を備える直島・豊島・犬島。「歴史や自然が存在しないところに『人間』は存在し得ないのではないか」、「よく生きるとはどういうことなのか」という問いへの答えにつながる場所でもあります。日本で最初の国立公園に指定されながらも、日本の近代化や戦後の高度成長を支え、かつ様々な環境問題などの負の遺産を背負わされていた場所でもありました。私たちは、アート活動を通して問題解決を図りながら、自然や歴史、文化など、島本来の美しい姿を次世代へと継承しています。

（上）豊島美術館　写真：鈴木研一
（下）犬島精錬所美術館　写真：阿野太一

写真：宮脇慎太郎

在るものを活かし、無いものを創る。

今までに無い価値の創造で、持続、成長へ

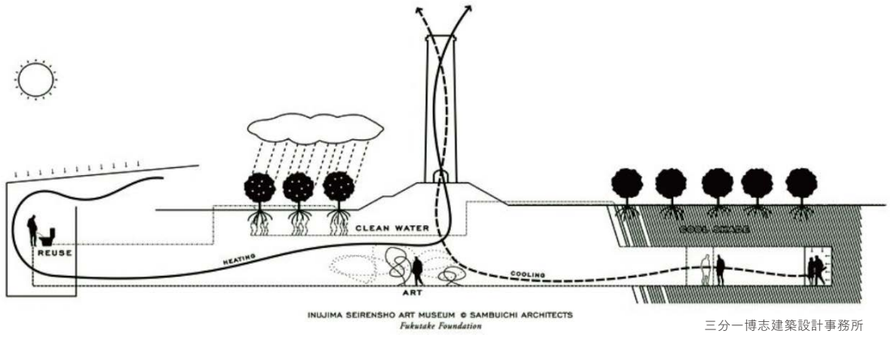
「ベネッセアートサイト直島」のアート作品の根底に流れるのは、「在るものを活かし、無いものを創っていく」というコンセプト。この地が備える自然や歴史、文化などの在るものを活かし、今までにない価値を創造していくことは、持続し成長することにつながります。たとえばここにご紹介する作品たちも、サステナブルという思想から生まれた結晶です。

写真：阿野太一

犬島精錬所美術館

環境・遺産・建築・アートによる地域創造モデル

近代化産業遺産である犬島の銅製錬所跡を、カラミ煉瓦造りの工場や煙突などの遺構を活かしながら保存・再生。また、太陽や地中熱などの自然エネルギーを活用するとともに植物の力を借りた高度な水質浄化システムを導入。犬島の風土に合わせた植栽も含め、環境・遺産・建築・アートによる循環型社会を意識したプロジェクトとしている。



三分一博志建築設計事務所

写真：森川昇

豊島美術館

棚田とアート、建築の調和

棚田が広がる豊島唐櫃（からと）の小高い丘の中腹にある、水滴のような佇まいの豊島美術館。天井にある開口部から周囲の風や音、光を取り込み、アート・建築・自然の限りない融合を体現している。また周辺の棚田は島民とともに再生。棚田の風景と食を楽しめる「収穫祭」など、来島者と地域住民が触れ合える機会を創出し、地域活性化にもつなげている。

写真：新建築社写真部

The Naoshima Plan「水」

直島・本村地区の自然や歴史を再認識

直島での風の吹き方や、集落に張り巡らされた地下水脈を活かして旧家を改修。井戸水を湛えた水盤が設けられ、風と水を感じられる場に。暮らしの知恵や自然の豊かさ、美しさを再認識する試みとなっている。

「The Naoshima Plan」とは
2011年から建築家の三分一博志とともに取り組んでいるプロジェクト。2013年には「風と水のコクピット」、2015年には多目的施設「直島ホール」と個人住宅「直島の家-またべえ」を発表。2019年のThe Naoshima Plan「水」に続いて、2022年にはThe Naoshima Plan「住」を発表。